

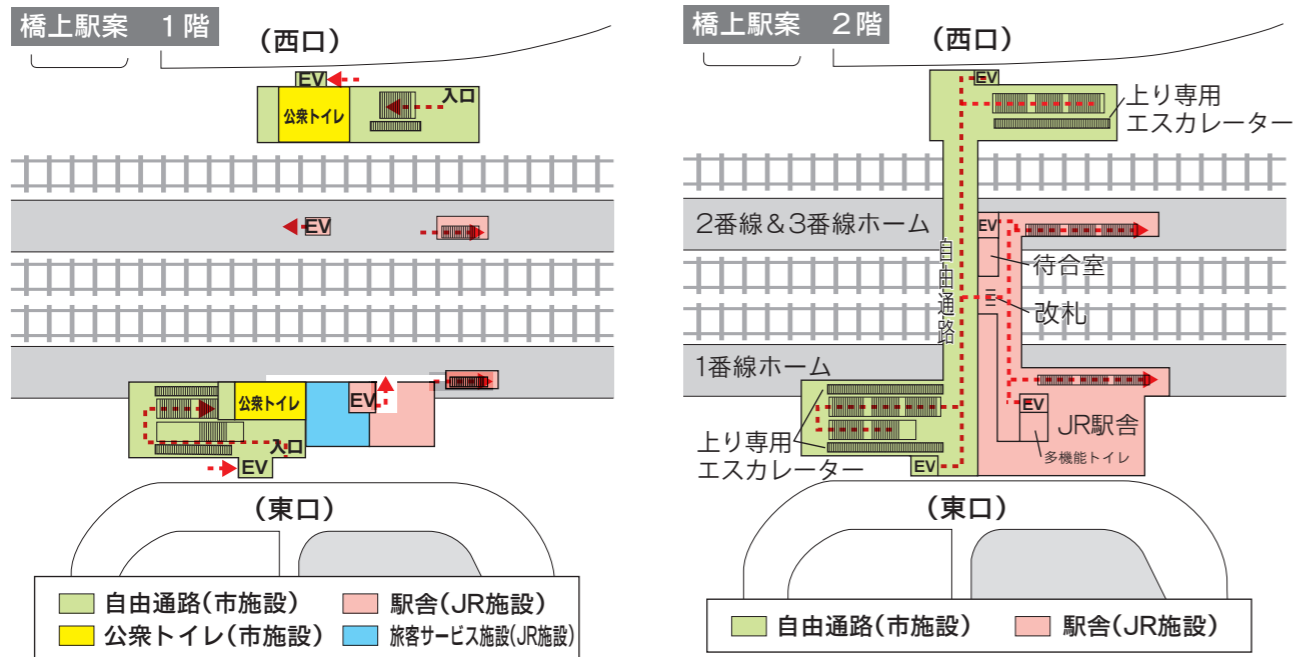
## 追加調査の結果(橋上駅案の場合)

自由通路の機能は半橋上駅と同じですが、半橋上駅との違いは、改札口および待合室の位置です。橋上駅の特徴は、自由通路の中央に改札口があることです。また、事務室などについては、東口側の駅舎に配置します。線路上空部分の駅舎面積を縮減することによって、整備費用を削減するとともに、工期も短縮しました。



▲橋上駅案のイメージ図

### ■橋上駅案の場合の整備案(平面図)



### ■橋上駅案の場合の整備費用は約35.9億円、市の実質的な負担額は約5.91億円

橋上駅案の概算整備費用は半橋上駅案の場合と同様に2020年度までの物価上昇を考慮すると約35億9,000万円と見込んでいます。

国の補助金および合併特例債を活用した場合の市の実質的な負担額は約5億9,100万円と試算しています。

※「市実質負担分」については、まちづくり基金などを活用することも検討します

区分	費用	【市負担分の財源内訳】	
国庫補助金	16.35億円	合併特例債(充当率95%) 16.77億円	交付税措置 70%
市負担	17.65億円		
リスク費	1.9億円	一般財源 0.88億円	市実質負担 5.91億円
合計	35.9億円		

### ◎整備の概略スケジュール

半橋上駅案と橋上駅案の整備スケジュールはともに基本設計から完成まで約6年間を予定しています。仮に令和5年度当初から事業を開始した場合の東西自由通路および駅の使用開始は、令和10年度後半となります。

1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)	4年目(R8)	5年目(R9)	6年目(R10)
基本設計	実施設計	支障移転工事	仮駅工事	本体工事	自由通路&駅供用開始
					仮駅撤去

## 追加調査の結果(半橋上駅案の場合)

東西の駅前広場を線路上空で結ぶ幅員4mの自由通路を整備します。

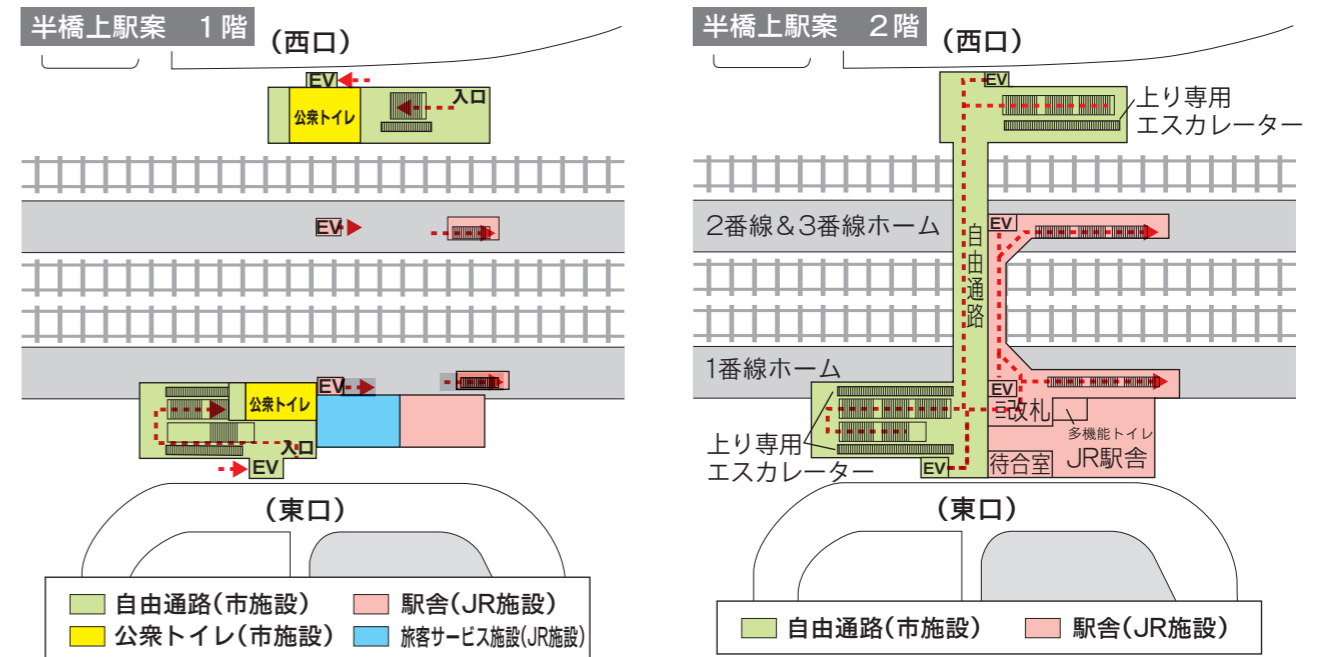
自由通路にはエレベーター(EV)と上り専用エスカレーターを東西に各1機ずつ設置。駅東口に新たに駅舎を建設します。また、改札口は駅舎2階に設け、自由通路から直接、改札口を通過して1階ホームに下り、電車を利用します。

東西の自由通路1階に公共トイレを設置し、駅舎1階に旅客サービス施設(例:コンビニエンスストア)を設置する計画です。



▲半橋上駅案のイメージ図

### ■半橋上駅案の場合の整備案(平面図)



### ■半橋上駅案の場合の整備費用は約34.4億円、市の実質的な負担額は約5.68億円

追加調査による見直しの結果、半橋上駅案の整備費の削減額は約2億7,000万円です。これに、西口公共トイレの追加および東口階段形状の変更により増額した約1億9,000万円を加えると、追加調査前と比較して約8,000万円が削減されます。

なお、2020年度までの物価上昇分を加えた追加調査後の半橋上駅案の概算整備費用は約34億4,000万円と見込んでいます。この34億4,000万円に対して、補助率2分の1の国の補助金(都市構造再編集集中支援事業)を約15億6,500万円見込むほか、市の負担となる約16億9,500万円には、合併特例債の活用を想定しています。

合併特例債は返済額の7割が後年度に交付税として措置されるため、市の実質的な負担額は約5億6,800万円と試算しています。

※「市実質負担分」については、まちづくり基金(\*)などを活用することも検討します

\*…市民の連帯の強化や地域振興など、まちづくりに活用する目的で積み立てる基金(貯金)のこと。本市の令和4年3月末現在の残高は約65億円

追加調査による主な見直し内容	整備費の増減額
・自由通路の長さ短縮(約5m短縮) ・自由通路と駅舎を支える杭の本数見直し(杭4本削減) ・ホームエスカレーター取りやめ ・駅施設面積の縮小(約91平方m縮小) ・改札内トイレの見直し	▲2.7億円
・東口階段形状の変更(直階段から折り返し階段へ変更) ・西口への公共トイレの追加	1.9億円
合計	▲0.8億円

区分	費用	【市負担分の財源内訳】	
国庫補助金	15.65億円	合併特例債(充当率95%) 16.1億円	交付税措置 70%
市負担	16.95億円		
リスク費	1.8億円	一般財源 0.85億円	市実質負担 5.68億円
合計	34.4億円		

リスク費とは、工事の際の地中障害物などの不測の事態に備える費用で、必ず発生する費用ではありません